

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	関西外国語大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンサイガイコクゴダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	グローバル・インターンシップA~G
	学部・研究科等名	留学生別科
	担当教職員名・役職	Stephen A. Zurcher(留学生別科長)・国際交流部・キャリアセンター
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	44	
受入企業等数	32	
受入企業等名	http://www.kansai.ac.jp/asp/academics/kgip/internship-resources/	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	鉄道会社では、駅での現場研修や外国語版HP、駅構内案内サインや駅係員のインバウンド対応力の課題分析と改善案の提案を体験する。ホテルでは、ロビーおよびホテル内各所でのゲストの案内やコンシェルジュ業務補助を通じて日本の大型ファーストクラスホテルのゲストサービス、ホスピタリティーマインド、オペレーション実務を学ぶ。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	留学生のため学年不問
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	実習時間数に応じて1単位~12単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学で受け入れている外国人留学生に日本社会についてより深く学ぶ機会として、授業終了後から原籍大学へ帰国するまでの期間中に日本企業や地元の教育機関でのインターンシップを実施している。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	適宜メールや電話での報告や相談を受け付け、教職員が対応している。また、学生には実習日報を毎日記入し、毎週提出することとし、モニタリングに替えている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	国際交流部職員がビジネスマナーの研修を行っている。教育機関での実習に参加する学生にはロールプレイを行っている。実習先の事業内容等の理解や担当者との実施目的のすり合わせのため、国際交流部職員とともに事前に実習先を訪問している。また、キャリアカウンセラーによる日本語での履歴書添削、面接対策を実施している。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習日報の作成を通してインターンシップの振り返りを行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	適宜メールや電話での報告や相談を受け付け、教職員が対応している。また、学生には実習日報を毎日記入し、毎週提出することとし、モニタリングに替えている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生の日報及び企業作成の評価報告書を通して、日本社会で働くことへの意識や理解の変化を確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間:約2週間から2ヶ月間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	留学生別科における学年歴の春学期終了後の6月から8月にかけて、メーカーや商社、鉄道会社等の企業、行政機関では2週間から2ヶ月間実施し、小・中・高等学校では1ヶ月間実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習内容の設計にあたっては、大学で募集要項の雛形を作成し、実習内容を明確にしている。また、企業担当者に学生の評価報告書の作成を依頼し、単位認定の際の参考としている。評価項目は、理解力、表現力、積極性、協調性、責任感、マナーの6項目で、各項目5段階評価と所見の記入を依頼している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.kansaigaidai.ac.jp/asp/academics/course-syllabi/
問い合わせ先	大学等名	関西外国語大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	
	担当者氏名	岡田 京子
	電話番号	072-805-2851
	メールアドレス	cc-intern@kansaigaidai.ac.jp